

介護現場における生産性の向上について

巻頭言……介護現場の生産性向上と介護福祉士 ◆◆ 及川ゆりい ……

5

1……介護現場の生産性向上の取組とは ◆◆ 吉田俊之 ……

6

2……デジタル・テクノロジー基本研修の構築 ◆◆ 酒井賢一 ……

13

3……デジタルテクノロジーの活用と倫理

「座ってじっとしてほしい」これは誰に対しての誰のニーズでしょう? ◆◆ 舟田伸司 ……

19

4……介護現場の生産性向上の取組 ◆◆ 宮本隆史 ……

32

COLUMN……多様な働き方の在り方 ◆◆ 奈良夕貴 ……

26

COLUMN……外国人介護人材の育成支援 ◆◆ 今村文典 ……

28

1から理解する認知症——介護のチカラ ◆◆ 和田行男 ……

41

人材の3つのヒント——他業界の成功事例から学ぶ「人材確保策」——採用する ◆◆ 丸山法子 ……

44

E

N

T

S

やっぱり現場はおもしろい——職員意見を聞いて軌道修正◆◆坂野悠己……………46

課題解決のための事例検討◆◆日本赤十字社総合福祉センター 居宅介護支援事業所……………48

障害者をささえる現場から——利用者も地域を支える「カイゴのチカラ」◆◆坂田典子……………54

介護とシーティング——生活課題をシーティングで改善してみよう◆◆高木憲司……………56

介護職が知っておきたい医学の知識——高齢者の「気持ち」に寄り添う——高齢者のメンタルヘルス◆◆堀田富士子……………58

地域で生きるともに生きる——災害時における介護福祉士の役割◆◆菊地月香……………60

にほんではたらく。外国人介護職リレーエッセイ◆◆張陽……………62

幸せの国フィンランド便り◆◆橋本ライヤ……………64

五感から生じた感情に共感する暮らしのサポート・カイゴ◆◆石川立美子……………66

社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士都道府県別登録者数……………69

国家試験のご案内……………70 公式SNSをフォローしよう！……………72

YouTube 深掘り動画のご案内……………73

読者アンケート……………74

キャッシュレス決済のご案内……………75

バックナンバーのご案内……………76



NO.131

2024年8月1日発行

特集
FEATURE

介護現場における

生産性の向上

について

介護現場の生産性向上と介護福祉士

介護現場の生産性向上の取組とは

デジタル・テクノロジー基本研修の構築

「座ってじっとしてほしい」「これは誰に対しての誰のニーズでしょうか？」

多様な働き方の在り方

外国人介護人材の育成支援

介護現場の生産性向上の取組

FEATURE
特集

本特集「介護現場における生産性の向上について」を深掘りした動画をYouTubeで配信しています！
公益財団法人社会福祉振興・試験センター公式チャンネル

介護現場の生産性向上と介護福祉士

公益社団法人日本介護福祉士会会長

及川ゆりこ



和5年度高齢社会白書によると、我が国の総人口は令和4年10月1日現在、約1億2500万人。そして、65

歳以上人口は3624万人、高齢化率は29.0%となった。少子高齢社会といわれる日本の人口問題は、いよいよ高齢化のピークを迎え、併せて生産年齢人口の減少も深刻化し、大きな課題となっている。

この状況下において、介護現場の慢性的な人材不足はまだ解決策が見えない。高齢化の進展は、介護ニーズの増大に伴うニーズの多様化、複雑化、高度化の深化を意味するものである。

山積する課題が叫ばれる中、介護現場では、介護の質を低下させないように介護職員等が日々奮闘している。そして、介護の専門職である介護福祉士は介護現場の中核を担う介護リーダーとして、認知症の症状を持つ利用者への支援や終末期の利用者への支援などの様々な個別ケアの在り方の検討を繰り返し行っている。併せて、介護リーダーは介護現場の人材育成や、シフト作成などの人材マネジメントも担いながら、

利用者のQOLの維持改善に取り組んでいる。

現在の介護現場の課題に、厚生労働省は、「介護現場における生産性の向上」を打ち上げ、様々な議論のある中、取組を進めているところである。

介護現場における生産性の向上の意味は、作業効率を上げることではなく、様々な視点で業務改善を進めることである。この生産性の向上の取組によって、介護職員等が利用者に向き合う直接介護の時間が確保できること、寄り添いながら質の高い介護を展開することに多くの時間を使うこと、このような取組こそが、介護現場の生産性の向上である。

今回の特集は、介護現場における生産性の向上とは何か、デジタルテクノロジーの導入、生産性向上を具体的に取組むためのチームリーダー養成プログラムの内容や実際の介護現場での取組などを紹介する。

この取組によって、介護職員等による利用者のQOLへの働きかけが多くなることを期待する。

及川ゆりこ Oikawa Yuriko

静岡県三島市在住。公益社団法人日本介護福祉士会会長。一般社団法人静岡県介護福祉士会顧問。株式会社かいごラボ代表取締役。医療法人にて、病院の介護職員、老人保健施設の介護職員、介護支援専門員、訪問介護事業所所長、デイケアセンター長を務め、社会福祉法人にて、施設ケアマネ、介護長、施設長を経験した。介護福祉士。介護支援専門員。認定介護福祉士。

介護現場の 生産性向上の考え方

1

なぜ「作業効率」ではなく
「生産性」なのか？

介護サービスの生産性向上には古典的な考え方や確立した方法論が存在しなかった。近年、制度設計者や学者、介護の業界団体、厚生労働省が議論を重ね、少しずつ輪郭を描いてきた。この過程の背景には介護の供給と需要のギャップが存在しているが、その解消に向け、「作業効率」ではなく「生産性」向上が推進されている。その理由の一つは、作業効率と生産性の考え方の違いに求めることができる。

生産性は、通常、単位投入量に対する出力量あるいは成果として表現



介護現場の 生産性向上の取組とは

埼玉県立大学地域連携センター教授

吉田俊之 Yoshida Toshiyuki

され、この数値が高くなるほど生産性が向上することを意味する。作業効率は統一された公式を持たないものの、一般的には仕事をより迅速に進める度合いや、より少ない労力で作業を行う度合いとして捉えられる。どちらの概念も業務改善が重要な要素であるが、生産性向上は「成果」の視点を含む点が特徴である。介護現場においては、生産性は、決められた人員数で適切なケアやサービスを提供した量や、利用者本位の成果を達成した度合いとして捉えられる。一方、作業効率は、ケアやサービスをより迅速に済ませたり、より少ない人数で達成したりする能力を指す。このような視点の違いから、生産性の考え方は介護サービスの品質を考慮に入れた業務改善の効果を評価するための有益な手段となり得る。

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット
マネージャー

奈良夕貴 Nara Yuuki



2021年より在職。前職では、外国人技能実習制度における介護職種の試験実施機関として、国や関係団体と共に、介護技能実習評価試験の仕組みの検討、構築に携わる。現在、外国人介護人材の働きやすい環境作り・就労継続を中心に、医療・介護・障害領域における調査研究、PMO等を担う。社会福祉士。

生産年齢人口の減少が本格化していく中、介護現場の人材確保・定着においては、個々のライフスタイルに応じた多様な働き方や柔軟な勤務形態が重要である。様々な取組がある中で、いくつか代表的なものを紹介する。

多様な働き方の代表格である「介護助手」は、特にリタイア後のアクティブシニアが活躍している。介護助手に介護の周辺業務や送迎・調理・清掃などを担ってもらうことで、介護職がより専門的な業務に従事する時間を増やす効果がある。介護現場の人手不足解消にもなり、地域の雇用創出にもつながっている。また、都心部を中心に、介護施設に有資格者の短時間就労をあっせんする民間サービスが拡大している。「時間を限定して就労」できる仕組みは、育児や介護などによりフルタイムで働くことが難しい方にも有効な取組である。このサービスは潜在介護福祉士の掘り起こしや採用前のお試し雇用としての役割も担っており、様々な効果が期待できる。

他にも、「週休3日10時間制」を取り入れることで、余暇の充実を目指す事業所も増えてきている。さらに、「兼業・副業」を超えて「パラレルキャリア」といった自身のスキルアップや夢の実現、社会貢献活動などのために、複数の職業を両立させる働き方もあり、介護現場には多様な人材が参入してきている。

介護現場において、働く人たちのワーク・ライフ・バランスを充実させ、長く働き続けられる環境を整えることは、人材の定着率を上げ、結果的にケア

地域で生きる ともに生きる

災害時における 介護福祉士の役割 vol.7



KIKUCHI YOKO
菊地月香 ● 社会福祉法人同愛会理事長

近

年、毎年のように災害が発生し、事業の継続や福祉サービスの対象者、地域住民へ様々な影響を及ぼしている。令和3年度の介護・障害福祉サービスの報酬改定においては、「災害対応力の強化」としてBCP（事業継続計画）の策定と訓練、地域との連携が義務付けられた。

災害発生時、事業者も被災者である反面、利用者・職員等の安全が確保された時点で支援者の側面を有することから、サービス提供主体として事業の継続が求められる。さらに、事業所機能が健全の際には公共性の観点から地域の社会資源としてハード・ソフト面の機能を還元すべく、平時から防災拠点としての体制整備に取り組むことが必要である。

東日本大震災や能登半島地震においても、一時

的であるが地域住民が避難し、受け入れた事業所もあり、災害時要支援者である障害者や高齢者はもちろんのこと、地域のニーズに対応し得る防災拠点としての体制整備が求められている。

公共性の観点を踏まえた機能として、以下の6点が主に挙げられるだろう。

〔1〕新たな対象者や要援護者への福祉サービス提供事業所としての機能

〔2〕福祉避難所および二次避難所としての機能

〔3〕ボランティア等の受入れ拠点としての機能

〔4〕ボランティアや施設間支援を含む、災害支援におけるスタッフ派遣としての機能

〔5〕事業所における備品、備蓄等の拠出元としての機能

〔6〕災害福祉支援ネットワークを通じた専門職



五感から得た情報で感情は生じている

五感から生じた感情に共感する暮らしのサポート・カイゴ



株式会社介護共育研究会代表

石川立美子 ISHIKAWA TAMIKO



カイゴ・介護・KAI GO……、いろいろな表記がありますが、あなたにとってのカイゴはどのようなものですか？

私にとってのカイゴとは、「五感から生じた感情に共感する暮らしのサポート」です。この連載で、読者の皆様と一緒にカイゴを深めていきたいと思っています。

脳は、眼・耳・鼻・舌・皮膚などの外界からの情報を解釈して、怒り、嫌悪、恐怖、喜び、悲しみ、驚きなどの感情が生まれます。赤ちゃんからお年寄りまで、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）の機能の個人差はあっても、ほぼ誰でもが保持し、日々活用しています。そして、青空を見ることで、幸せを感じたり、雨音を聞いて、外に出ることができない悲しさを感じたり、香ばしい焼き魚の香りを嗅ぎ、早く家に帰りたくなって、小走りになったりします。毎日の暮らし